



TITLE:

# Plone によるウェブサイト構築と 広報

AUTHOR(S):

奥中, 敬浩

---

CITATION:

奥中, 敬浩. Plone によるウェブサイト構築と広報. 京都大学工学研究科  
技術部報告集 2015, 12: 45-46

ISSUE DATE:

2015-05

URL:

<https://doi.org/10.14989/198313>

RIGHT:

# Plone によるウェブサイト構築と広報

奥中 敬浩

京都大学 大学院工学研究科 附属情報センター

## 概要

京都大学大学院工学研究科では部局・専攻・学科等のウェブサイト約 50 サイトを CMS (Plone を利用) で運用している。これまで Plone の導入・認証基盤との連携・デザイン刷新といった技術面での改定、およびコンテンツ配置の見直し・英語コンテンツの充実といった広報面での改定を何度か行い現在の形となった。ここでは工学研究科におけるウェブサイト運用について紹介する。

## 1. Plone について

Plone は Python で書かれた高機能なオープンソース CMS のひとつであり主に次のような機能がある。

- ・ ブラウザ上での編集 (WYSIWYG エディタ)
- ・ コンテンツ単位のロール設定
- ・ コンテンツのワークフロー
- ・ LDAP サーバとの連携
- ・ 多言語機能
- ・ 比較的容易なアドオン開発

規模の大きな組織では、LDAP サーバとの連携やコンテンツ単位のロール設定機能はユーザ管理をする上で重宝する機能である。また Plone のコンテンツはフォルダ・ファイルといった概念で構成されており、一般ユーザにも親しみやすい点もメリットとしてあげられる。ただし高機能ゆえに、構築やメンテナンス作業が複雑になる点は注意が必要である。

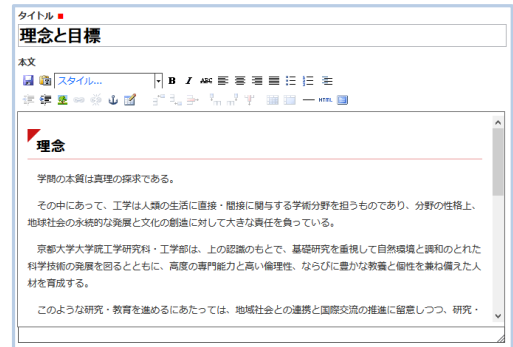


Fig.1: WYSIWYG エディタ

## 2. Plone の導入・開発

工学研究科では、2008 年に Plone を導入した。導入時の技術面での目的のひとつは、サイトの編集権限があれば誰でもブログ感覚で編集できるようにし、コンテンツの追加・更新を容易にすることにあった。これは技術を導入するだけではなく編集サポートを随時行うことで、各担当部署での更新頻度が徐々に上がってきたと感じている。他にも大学の認証基盤に接続することで、管理面でも効率化を図ってきた。現在はさらに Shibboleth 認証機能のアドオンを独自開発し、シングルサインオンを実現している。



Fig.2: Shibboleth 認証

### 3. コンテンツ構成の見直し

しかしウェブサイトは技術者やデザイナーの満足となるのではなく、訪問者目線でのサイト作りが大切である。工学研究科のサイトでは特に「階層が深く必要なコンテンツを見つけられない」という声が多く、時間をかけてコンテンツ構成を再検討することとなった。

まず大学の特殊事情として大学院工学研究科と工学部は別組織であるため、大学院と学部それぞれ独立したページ構成としていたが、実際は「工学」として一体で活動することも多い。その結果「大学院と学部のどちらのページに必要なコンテンツが載っているか分からない」ということが考えられた。さらに世間一般からは大学院より「工学部」の認知度が圧倒的に高いため、学部ページの訪問者が多いと考えられた。そこで主に次の点を変更した。

- ・ 大学院と学部ページを組織で分けず 1 本化
- ・ トップページに 2 階層目までの項目を掲載

この変更によりトップページでサイト内にどのようなコンテンツがあるか一目で分かるようになり、下階層へのアクセスが大幅に改善された。また大学院と学部ページを組織で分けないことに対しては反対意見も多かったが、変更後は「見やすくなった」という意見が多く問題は出てきていない。



Fig.3: コンテンツ構成の見直し

### 4. まとめ

Plone を導入することで、ウェブサイトをブログ感覚で編集できるようになり、サイト編集のハードルを下げることができた。またユーザ管理面でも大学の認証基盤に接続することで効率化を図ることができた。さらにウェブサイトのコンテンツ構成は訪問者視点で考えると、組織別ではなく内容別に整理する方が親切である。これも Plone のコンテンツ単位のロール設定機能を活用することで、内容別にコンテンツを整理した上で、コンテンツごとに柔軟に編集権限を割り振り運用することが可能となった。

しかし技術面では環境が整ってきたものの、広報視点で考えるとまだまだ十分でない部分も多く、今後も継続的に見直していく必要がある。